

平成 28 年 9 月 定例委員会々議録

1 日 時 平成 28 年 9 月 30 日（金） 午前 9 時 00 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 201

3 出席委員の氏名

教 育 長	仲 野 孝	教育長職務代理者	齋 藤 和 夫
委 員	黒 川 優 子	委 員	山 崎 克 弥
委 員	中 野 信 男	委 員	秦 久美子

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教 育 次 長	山 田 公 一	主 幹	長 谷 川 智
学 校 教 育 課 長	堀 克 彦	子 育 て 支 援 課 長	宮 路 豊 行
社 会 教 育 課 長	宮 路 一 規	指 導 主 事	小 泉 浩 彰

6 本委員会書記

学校教育課 太 田 和 行 他 3 名

7 傍聴人

2 名

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

- (1) 報告第 9 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

- (1) 協議題 5 号 新規共催・後援申請について

議 案

議案第50号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

議案第51号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

議案第52号 燕市教育委員会附属機関の委員の報酬に関する要綱の一部
改正について

議案第53号 燕市次世代育成支援推進委員会設置要綱の廃止について

そ の 他

(1) 平成28年第3回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成28年度燕市一般会計補正予算（第3号）の概要について

2) 一般質問について

(2) 燕市の全国学力・学習状況調査の結果について

(3) 燕市生涯学習人材バンクの利用受付開始について

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午前9時00分～

2. 会議録署名委員の指名 山 崎 克 弥 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について
〈各課長が報告〉

○委員（黒川 優子）

こども園の作品展は行わないのか。

○子育て支援課長（宮路 豊行）

こども園については、保育園と同時期に行う予定である。

○委員（黒川 優子）

先般、学校の授業や部活動における柔道の事故が多くなっていることや、水泳での飛び込み事故等の報道がある。体育の授業で柔道を選択している学校は特に多いと思う。柔道を専門としない体育の先生が柔道を教えている学校も多いと思うので、再度気を引き締めて取り組んで欲しい。

○主幹（長谷川 智）

3年ほど前に大きな柔道の事故がありテレビのニュースでも取り上げられた。それ以来、柔道を指導した経験が少ない先生もいるので、研修会等を行い、柔道の教え方の研修を増やした。また県ではDVDの作成をして授業を指導している。105時間の内、柔道の時間は15時間程度であり、死亡事故は部活動の試合に近い形の中で発生することが多い。柔道の授業は試合形式までいく前に終了するため、しっかり受け身を指導することで怪我には十分注意している。今後は校長会で指導するとともに、脳震盪の知識についても教員に資料配布を行う。

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が報告〉

1 全国学力・学習状況調査

○ 文部科学省が4月19日に実施した本調査(小学6年と中学3年を対象)の結果については、例年8月末の公表が延期され、昨日公表された。本市の様子は、別添資料のとおりであり、この後、報道発表を行うこととしている。

○ 今年の結果は、

① 小中学校の全ての教科で全国平均正答率を上回り、中学校においては、平

成19年度の本調査開始以来、初めての成果であった。

- ② 国語や算数・数学では「授業がよく分かる」という児童生徒が全国平均より多くなった。
 - ③ 1日当たり1時間以上家庭などで学習する児童生徒の割合は、小学校では全国平均を上回った。中学校では、全国平均を下回ったが、昨年度より向上している。
 - ④ 「人の役に立つ人間になりたい」や、「学校のきまりを守っている」児童生徒の割合は、昨年度に続き全国平均を上回った。
 - ⑤ 「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童生徒の割合は、全国平均を上回った。
- 今回の結果については、市内全ての小中学校が校長のリーダーシップのもと、家庭や地域などと連携し、知・徳・体のバランスを大切にされた教育を推進してきた成果であると考えている。
 - 独自に実施している保育園やこども園などでの「つばめおはようタイム」や、小中学校の「燕長善タイム」などの取組の成果も現れてきているものと考えている。
 - 今後は、さらに詳細な分析を進め、改善ポイント等を明らかにし、さらなる学力が向上するよう、各校の課題解決に向けて支援を続けていきたい。

2 本県の児童虐待数

- 新潟県庁児童家庭課は、平成27年度の児童虐待数を7月に公表した。その件数は1,438件と平成26年度と比べ211件増加し、過去最多を更新したとのこと。
- 虐待の種類としては、身体的27%、ネグレクト24%、心理的49%、年齢別では、3歳未満19%、就学前22%、小学生36%、中学生16%、高校生7%、虐待者は、実母51%、実父40%、相談経路は、警察27%、市町村21%、学校等11%となっている。
- 各学校が虐待等を受けている子どもの早期発見に努め、警察や児童相談所などの外部機関、庁内の関係部署と連携しながら、子どもたちが痛ましい事件などに遭わないよう、しっかり取り組む必要がある。

3 平成28年第3回燕市議会の主な一般質問(別紙資料あり)

- 他県の小学校における「午前5時間制」の効果を踏まえた市の対応について
- 8月に実施した総合教育会議を踏まえた今後の高校の検討について
- より優れた市展ポスターを作る工夫や努力について
- 少子化に対応した子育て支援における新たな助成や施策について
- 中学校における運動部活動のあり方について
- 学校施設の防災機能の実態について

- 中学校における職場体験学習の成果と課題について
- 子どもの貧困問題における本市の状況について
- 学校施設の整備状況と教育環境の整備について

4 9月行事予定等から

(1) 第11回燕市・西蒲原郡小学校親善陸上大会：9月9日(金)

- 燕市と弥彦村の小学校6年生がおよそ800人集まり、夏休みからの練習の成果を存分に発揮するとともに、競技や応援などをおして交流を図った。

(2) Jack & bettyプロジェクト親善大使帰国報告会：9月17日(土)

- 燕市国際交流協会の会長、燕市立小・中学校の発展を願う市民の会の会長、燕市議会総務文教常任委員会委員長などをはじめ、燕子ども応援おひさまプロジェクト事業に参加いただいている事業所の皆様をお迎えし、約80人の方が集まり報告会を実施した。
- 小中学生12人の親善大使が、オーストラリア、シンガポールでの体験や地元生徒との交流などを英語で報告してくれた。
- この経験を忘れず、将来の燕市を担う人材、ふるさと燕を応援する人材として大いに期待している。

(3) 幼稚園・こども園合同発表会：9月17日(土)

- 4園で約60人の5歳児が集まり、各園ごとに練習の成果を発表した。
- 衣装に工夫を凝らし、鼓隊演奏やリズム表現に取り組む姿に感動した。

(4) 国体出場選手団の激励会：9月23日(金)

- 岩手県で10月1日(土)から第71回国民体育大会が、10月22日(土)からは第16回全国障害者スポーツ大会が開催される。
- 燕市体育協会主催のもと激励会を実施し激励した。本市からは、監督、コーチ、選手合わせて29人が選出され、その活躍や健闘が期待される。

5 その他

- (1) 小中学校教職員による高校訪問については、10月21日(金)に三条高校、10月25日(火)に燕中等教育学校、10月31日(月)に巻総合高校を予定している。
- (2) 8月から募集していた「燕市生涯学習人材バンク」については、9月27日までに52人の方から講師の希望があり、延べ69件の講座が開設可能となった。今後、市民の皆さんから積極的に活用してもらえよう周知に努めたい。
- (3) 10月13日(木)に「燕市立小・中学校の発展を願う市民の会」が予定されており、今年の全国学力・学習状況調査の結果や食育の現状、不登校や教育的支援を必要とする生徒への対応などについて説明することとしている。

(2) 寄附報告

- 1件の寄附報告について

〈No.1 について宮路社会教育課長が報告〉

○子育て支援課長（宮路 豊行）

昨日、協栄信用組合より「ピーターパン募金」の一部として、約 20 万円相当の一輪車を含めた遊具について、西燕児童館に寄附をいただいた。寄附贈呈のあと、園児が一輪車の披露を行った。また同様に、お金に関する絵本を各保育園・幼稚園に 1 冊ずつ寄附していただいた。

4 専決処分の報告について

報告第 9 号 共催・後援の教育長専決報告

9 件の共催・後援について

〈堀学校教育課長が報告〉

5 協議題

協議第 5 号 新規共催・後援申請について

2 件の後援について

〈堀学校教育課長が報告〉

6 議案

議案第 50 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

〈堀学校教育課長が説明〉

議案第 51 号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

議案第 52 号 燕市教育委員会附属機関の委員の報酬に関する要綱の一部

改正について

議案第 53 号 燕市次世代育成支援推進委員会設置要綱の廃止について

〈宮路子育て支援課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく承認された。

7 その他

(1) 平成 28 年第 3 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 3 号）の概要について

〈各課長が説明〉

2) 一般質問について

〈山田教育次長が説明〉

(2) 燕市の全国学力・学習状況調査の結果について

〈長谷川主幹が説明〉

(3) 燕市生涯学習人材バンクの利用受付開始について

〈宮路社会教育課長が説明〉

○委員 (山崎 克弥)

補正予算の「私立認可保育所経費」について、この事業費は補助率 100%なのか。それとも自己負担が発生しているのか。

○子育て支援課長 (宮路 豊行)

補助の基準があり、初めのシステム導入については、1園上限 100 万円の基準があり、ビデオカメラの設置については 1園上限 10 万円となっている。その金額を超えた場合は運営者の負担となる。

○委員 (山崎 克弥)

実際の私立保育園の負担額はどれ位なのか。

○子育て支援課長 (宮路 豊行)

仮に上限額の 100 万円であれば、負担は国から 3/4、残りの 1/4 は燕市の負担となる。上限額を超える部分は運営者の負担となる。100 万円の基準内の購入であれば 100%補助される。

○委員 (山崎 克弥)

高いものを購入すれば自己負担が発生するが、基準内で購入すれば全額補助されるということによいか。

○子育て支援課長 (宮路 豊行)

その通りです。

○委員 (黒川 優子)

全国学力・学習状況調査の結果について、朝食を全く食べていない児童の割合が 0%でないことに大変驚いている。学校ではこの数字を把握しているか。

○主幹 (長谷川 智)

把握している。保護者と連絡を取り、改善を目指している。

○委員（黒川 優子）

朝食を食べることは食育にもつながってくると思うが、学校では毎年すべての生徒に調査を行っているのか。

○主幹（長谷川 智）

時期を決めて調査を行っている。

○委員（中野 信男）

国語 A と国語 B、算数 A と算数 B の「A」と「B」の違いは何か。

○指導主事（小泉 浩彰）

「A」については基礎・基本を中心とした問題であり、「B」はそれを活用した問題である。例えば、単純に三角形の内角の和を求める問題は「A」となり、表を使用し色々な見方で、その表をどう判断するかが活用の「B」となる。

○委員（中野 信男）

この調査は平均だけを見ているが、平均だけを見ても全体の姿はわからない。これは正規分布しているので平均しては良いと思うが、全体の姿を見ようとするとしてもバラつきがないといけなく、文部科学省はわかっていながら公表していないのではないかと思う。文部科学省も本来であれば、全体の姿を見せようとするのであれば、そのバラつきも公表すべきと承知していると思うが。何か意図があり公表していないのか。バラつきも一緒に見ないと受け入れられないという重みのある考え方だと思うが、その点を何らかの形でひも解いてもらいたい。

○指導主事（小泉 浩彰）

平均は分布が真ん中に集まったものと、両端に2コブとなったものでは平均値が同じになるが、学校としての対応は全く違ってくる。2コブの山の方は下位の山を手厚く指導していく必要があり、真ん中に集まっているのであれば全体をより高い所へ持っていく対応をとる必要がある。どちらの対応を取るのかは学校で把握し、対応を行っている。

○委員（中野 信男）

これだけサンプル数が多くなると正規分布に近くなると思う。学校ごととなるとサンプル数が少ないので正規分布が崩れた形になるのは十分予想できるので、今聞いた内容で良いと思う。サンプル数が多くなると正規分布に近くなると思うが、燕市の正規分布と全国、新潟県の正規分布は異なると思う。それは重要な教育のファクターだと思う。

○指導主事（小泉 浩彰）

燕市の特徴をしっかりと把握して分析を行い、対応をしていきたい。

○委員（中野 信男）

なぜそのバラつきを公表しないのか。

○指導主事（小泉 浩彰）

今、結果を公表したばかりだが、やがて教科ごとに分析したものが各学校と市教育委員会に配布され、そこには正規分布や分散、最大値、最小値の差などの細かいものが出てくるので、その辺りを良く確認して全国と燕市の違いや県と燕市の分布の違いをしっかりと把握し、対応していきたい。

○教育長（仲野 孝）

小中学校の数字が良くなったという判断は、上が伸びたというよりも、底上げができたのではないかと捉えている。また詳細な分析を報告したい。

○委員（山崎 克弥）

生涯学習人材バンクについて、新たにこの事業を立ち上げるということなのか。

○社会教育課長（宮路 一規）

「わがまちの達人」「まちの先生」という2つの既存の人材バンクがあったが、それぞれ所管が学校教育課と社会教育課で分かれており、それを統合して新たに「燕市生涯学習人材バンク」として10月1日から稼働する。

○委員（山崎 克弥）

この人材バンクは講師を登録、公開し団体に講師を紹介する制度であるが、市のHPを見た所、そのページを見つけることが出来なかったが、どのような方法で探せば良かったのか。市民から広く活用してもらうとなるとどんなジャンルがあるのか探せないと思うが。どんな形で周知していくのか伺いたい。

○社会教育課長（宮路 一規）

市のHPでの周知に加え、各公民館にHPと同等の情報を紙媒体の冊子で置き、高齢者等のHPを利用できない方へも対応できるように考えている。

○委員（山崎 克弥）

このHP等の周知はいつから開始するのか。

○社会教育課長（宮路 一規）

10月1日から開始する。

○委員（齋藤 和夫）

この人材バンクについては各市町村にもあると思うが、やってみてあまり利用されないのでは困る。今回は自薦登録のため指導者レベルに達していない人の登録や、住民で指導力があっても登録していない人もいるので、自薦の登録だけで締め切るのではなく、締め切り後に各団体等に相談をし、各団体から推薦される人がいた場合をお願いをすれば、登録者名簿がより活用されるのではないか。自薦で登録終了となると、あまり利用されない人材バンクとなる危険性がある。その点を事務局で検討し、追加の策を講ずることで人材バンクの資料が生きてくると思う。

○社会教育課長（宮路 一規）

その懸念はあった。年2回開催している公民館館長会議の第1回目でも同様の懸念があった。公民館で活動している団体の代表者は、かなり生涯学習面でのスキルが高い方もおり、館長の方から声掛けをしていただき推薦等をしてもらう予定である。既存の「わがまちの達人」「まちの先生」にすでに登録している人へも新しい人材バンクへの登録をお願いして、かなりの人に登録していただいた。

○委員（齋藤 和夫）

そういった工夫をして生きた人材バンクにして欲しい。

8 閉 会 午前10時35分

教 育 長 仲 野 孝 _____

会 議 録 署 名 委 員 山 崎 克 弥 _____

会 議 録 調 整 者 竹 田 亮 子 _____